

名和内科・巣南リハビリセンター 広報誌「清」

SAYA

2026 JANUARY Vol.17



2026  
Happy new year



名和内科・巣南リハビリセンター

岐阜清流病院 広報誌「清」

SAYA

2026 JANUARY Vol.17



臨床検査課・臨床検査技師スタッフ



# 地域の医療機関と大学病院をつなぐ 救急医療の現在と未来

岐阜県の救急医療の現場を知るお二人に、  
大学病院、地域医療それぞれの立場から  
現在の課題、そして救急の未来について聞きました。



インタビュー  
動画はこちら

**Q** お二人の現在のご専門と役割について教えてください。

**岡田** 岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センターのセンター長をしています。専門は救急、集中治療です。血液浄化（透析）など、重症患者を診るチームの統括をしています。

**田中** 岐阜清流病院循環器内科部長として、外来や入院患者の対応を行っています。専門は循環器、特に虚血性心疾患をメインに、内科一般全ての診療にあたっています。

**Q** 救急医療に関わるようになったきっかけや、思いを教えてください。

**岡田** 元々は循環器を学んでいましたが、大学院を修了した時に循環器救急治療のチームに入り、高次救命治療センターに異動しました。正直最初はうぬぼれがあって、心臓を動

かすことができれば救急はできると思っていました。いざ行ったら全然太刀打ちできない。重症患者は心臓だけでなく呼吸器、消化器、感染症、栄養全てを診なければなりません。その難しさと面白さを知って、のめり込んでいきましたね。

**田中** 私は現在も救急というよりはあくまでも循環器的なアプローチとなります。今まで循環器だけでなく内科一般全てを診ることで、循環器を基準に

救命を行ってきました。救急は一つの臓器だけではなく全身を診なければわからない部分も多く、全てを自分で診るのは難しいですね。

**岡田** 本当にそうで、瞬時に判断し、

とりあえず立て直して次はこつちを治して、という独特のスピード感があります。

**田中** 二分一秒を争う世界ですよ。

**Q** 現在の岐阜県における救急医療体制の特徴と課題について、どうお考えですか？

**岡田** 問題は山積みですね。まずは高齢化。今、救急車を使用されるのは7割方65歳以上で、これからもっと高齢者が増えていくと救急車の呼ばれる数も多くなります。岐阜県は広いので、搬送時間の問題があり、救急車が到着してから患者を病院に運ぶまで場所によっては2時間以上かかります。そういったことに対応するためにドクターヘリがあります

が、今度は病院側の問題として例えば岐阜大学病院は全国的に見ても病床の稼働率が飛び抜けて高い。つまり余剰病床が少なく、受け入れられる患者に限りがあります。課題として大きくはこの三つで、どうしていくか、一つずつ方策を立てているところですよ。

**田中** 私も概ね同じ意見です。高齢者が多くなっている、80、90代の方も増えています。誤嚥など年齢と共に体力や運動機能が下がってきて起こるような、疾患の高齢化も感じます。こういった方は繰り返して救急



な、疾患の高齢化も感じます。こういった方は繰り返して救急

搬送されてくることも多く、患者の数が増えれば病棟はどんどんひっ迫してしまいます。

**岡田** 救急車で運ばれてくる時の情報が少なく、受け入れてみたら重症だった、案外軽傷だったといったこともあります。病状によって適切な病院に運ぶことが、限られた医療資源を活用するために大事かと思っています。

**田中** 病院の偏在化や地域格差についても心配ですね。

**岡田** 現在、医療の均てん化を目指して遠隔ICUの導入を進めています。大学病院と遠方の病院とでカルテを共有し、ベッドに取り付けたカメラ越しに診療をするなど、遠隔でつなぐ仕組みです。

**田中** それはかなりありがたいですね。専門家がいないと治療に不安がある場合も大学病院のように専門家が揃っているところと連携できると力強いです。

**岡田** 近辺であれば外勤や派遣もできますし、医療者側が動くことで地域格差の問題をカバーしていけたらいいですね。

**Q** 災害医療の観点から見た、今後の岐阜県の備えに必要なことは何でしょうか？

**岡田** やはり日頃の備えですね。DMATなど、現場に行く方は注目

されますが、受け入れる側の病院の体制も整えないといけない。いくら日頃から訓練して

いてもその時になってみないといけないことが多いので、行政

とも連携し、情報の伝達や統括をしっかりと行うことが必要です。

**田中** いちばんは情報のやりとりでしょうか。県内や東海圏でカルテを統一できたらと思います。有事の際に電子カルテが使えるかもわかりませんが、行政も関わって情報伝達をスムーズに行えるようにしたいですね。

**岡田** 大学には防災センターがあって「地域防災士」を育てることもしています。病院ができることは限られているので、多職種との連携が欠かせません。

**Q** 岐阜県の救急医療のこれから、そして地域の皆さんへメッセージをお願いします。

**岡田** 大学病院としての使命は何よりも人材育成ですね。人を育て、地域に還元していくのが大事だと思います。

ます。地域の皆さんへのメッセージ

としては、救急も災害もやはり日頃の備えです。避難場所や飲んでいるお薬などを知ることが自分の身を守ることに繋がります。コロナ禍や震災などの直後は皆さん体調に気を付けたり備蓄したりしますが、時間が経って気が緩んだ時、思いもよらない時に災害は来ます。ずっと気を張っている必要はないけれど、ある程度普段から準備をしておくことが大切です。

**田中** 岡田先生のおっしゃる通り、やはり人材は大事です。岐阜県は専門分野の育成が強いですが、専門以外

## 田中俊樹部長

● 岐阜清流病院循環器内科  
● 岐阜清流病院救急・災害対策委員会委員長

## 岡田英志教授

● 岐阜大学医学部附属病院  
高次救命治療センター／  
救急・災害医学分野

のことが見えなくなってもいけない。救急のためにも、専門以外のこともやっていく必要があると思います。また、災害や救急という場合は医療者だけが頑張ればいいというものではありません。ご自分の病気を知っておくことがとても大事で、もし診断でわからないことは聞いていただいた方がいい。知っていれば、緊急時に医療者間で情報のやりとりが遅れたとしても、ご自身で気付けることがあるかもしれません。地域の方の協力なしにはできないことも多いので、医療者任せにならず、まずは自分を知ることが大事にしてほしいです。



## TEAM SEIKOUKAI

清光会グループで活躍中のスタッフを紹介します！

2025年10月入職

新任ドクター

## ●リハビリテーション科とは

怪我や病気の後に身体や心の機能を回復させて、できるだけ自分らしい生活が送れるように支える診療科です。例えば、脳や心臓の病気で動けなくなった時、骨折や関節の手術の後で動きを取り戻したい時、加齢により身体の機能が低下し、肺炎などの内臓疾患を起こした後などに利用していただくところです。歩く、立つ、座るなどの動きを取り戻す理学療法、食事、着替え、トイレなど日常生活をスムーズにできるようにする作業療法、呂律が回らない・食べ物が飲み込めない時に練習する言語療法などを、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、看護師等の専門のスタッフとチームを組み、早期の家庭復帰、社会復帰を目指して取り組んでいます。

## ●自己紹介

私は生まれも育ちも岐阜市です。平成21年岐阜大学を卒業後、岐阜大学脳神経外科教室に入りました。現在まで医師として17年間、大学病院や県内医療機関で脳神経外科に従事し、脳卒中急性期のカテーテル治療、神経内視鏡を用いた低侵襲手術、脳腫瘍に対する手術

や放射線治療・化学療法・基礎研究、脳卒中や頭部外傷後のリハビリテーションの領域で研鑽を積んでまいりました。昨年10月岐阜大学脳神経外科教室から、岐阜清流病院リハビリテーション科へ配属となりました。

## ●今後の意気込み

私はこれまで、脳神経外科医としての仕事に誠心誠意取り組んでまいりました。障害を残さないためには、最初の急性期治療が最も重要です。その後、残った障害に対してはリハビリテーションを行うこととなります。機能改善を目指すだけでなく、残った機能でどう生活していくかも大切となります。

時に苦しい時間となることもありますが、リハビリテーションでは、障害を完全に治すことが難しい場合でも、工夫や練習を重ねることで「できること」が少しずつ増えていきます。その過程を患者さんやご家族と一緒に歩み、喜びを分かち合えることが、私たちリハビリテーションチームの大きなやりがいです。地域の方々のお役に立てるよう精進してまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

インドネシアから特定技能外国人として来日し、介護職員として活躍している2人に話を聞きました。

## ●特定技能外国人として日本に来ようと思ったきっかけは？

**アルヴィン** 私たちは高校卒業後、医療・介護の分野に興味を持っていました。友人から日本で介護の技術を学べる特定技能人材制度の話を聞き、挑戦したいと思いました。  
**リジャル** まずは日本語学校で6か月勉強をして、その後介護の基礎知識を学びました。日本語はとても複雑な言語で大変でしたが、少しずつ理解できるようになりました。

## ●日本に来て感じたことは？

**リジャル** 街中がとてもきれいで驚きました。清潔で素晴らしい国だと思います。自然も豊かでずっと日本に住みたいと思いました。  
**アルヴィン** インドネシアには雨季と乾季しかないのですが、季節の変化を楽しんでいます。日本の夏はインドネシアよりも暑くて大変でした。秋の季節の夜風がとても心地よくて好きです。

## ●介護職員として働き始めての感想は？

**アルヴィン** 利用者さんと一緒にレクリエーションをし

たり、リハビリ補助をする時間にやりがいを感じています。業務面では申し送り内容を理解することがまだ難しいですが、タブレットの翻訳機能を使ったり、日本人の職員に教えてもらいながら頑張っています。

## ●休日の過ごし方は？

**リジャル** 大垣にあるインドネシアの食品が販売されている店で買い物をしたり、料理をすることが好きです。日本食もとてもおいしいです！はま寿司やラムーのたこ焼きがお気に入りです。もう少し日本の生活に慣れてきたらフットサルに参加して体も動かしたいです。

## ●今後の目標を教えてください。

**アルヴィン** もっと日本語の勉強を頑張って利用者の皆さんと様々なお話ができればいいと思います。看護師さんからの指示にも自分一人で理解して対応できるようになりたいです。

**リジャル** 私も日本語の理解を深め、利用者さんとたくさんコミュニケーションをとりたいです。日本の介護技術をもっと勉強してキャリアアップしたいと思っています。将来は日本にずっと住みたいと感じているのでこれからも頑張ります！





## 巣南リハビリセンター 改修・修繕工事の進捗報告



現在、介護老人保健施設 巣南リハビリセンターでは改修・修繕工事を行っています。フロアごとに安全対策を確保しながら順番に工事を進めており、2026年7月に入居エリアが全面リニューアル完了予定です。ご利用者の皆さんにより快適にいきいきと暮らしていただける明るい空間を目指しております。今回は工事が完了した1北フロアの様子を紹介します。今後もご利用者の皆さんの安全に万全の配慮をしながら工事を進めてまいります。

## みずほふれあいフェスタ2025 清光会ブース出展

2025年11月2日、瑞穂市サンコーパレットパークにて『みずほふれあいフェスタ2025』が開催され、昨年に続き本年も清光会ブースを出展しました。今回の出展では介護・医療の相談会、体組成計による身体健康チェック、子ども輪投げゲームを用意しました。体組成計は内臓脂肪や体内の筋肉量の割合などを測定することができ、参加者の皆さんは自分の体の状態を興味津々で確認されていました。輪投げゲームにはたくさんのお子さんに参加いただき、ゲームクリアされた方には当施設の介護職員（元絵画教室の講師）による即興似顔絵のプレゼントがあり大盛況でした。今後も地域の皆様とふれあえる機会には積極的に参加してまいります。



2025年11月

## せいりゅうキッズフェスタ2025開催



電気メス体験



ピペット体験

11/16(日)当院初の“あそびとまなびの体験フェス(未就学児～小学生対象)”を開催しました！医師、看護師、薬剤師など病院ならではの12職種の「おしごと体験」を実施し、楽しみながら医療の世界に触れてもらいました。会場にはキッチンカーやマルシェも並び、笑顔あふれる一日となりました。ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。

## 歯科口腔外科コラム

記事執筆 歯科口腔外科医長 井上 敬介 先生  
歯科口腔外科専門医

### 第3回 「オーラルフレイル」って知っていますか？

皆さんは「オーラルフレイル」という言葉を聞いたことがありますか？

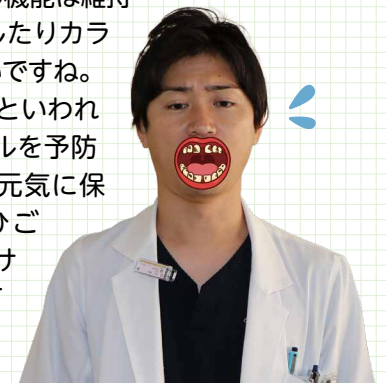
フレイルとは「虚弱」という意味で、加齢に伴って心身の活力が少しずつ低下していく状態を指します。その中でもお口に関する衰えを「オーラルフレイル」と呼びます。

具体的には、「最近よく食べこぼす」「硬いものが噛みにくい」「飲み込みにくい」「言葉がはっきりしにくい」「口が乾きやすい」といった小さな変化がサインです。これらは「年のせいだから仕方ない」と思われがちですが、実は全身の健康と深く関わっています。

噛む力や飲み込む力が落ちると、食べられるものが限られ、やわらかい食事ばかりになります。その結果、栄養の偏りや低栄養を招き、体力の低下、筋肉の減少へとつながります。さらに会話がしにくくなることで人との交流が減り、気持ちが沈みやすくなることもあります。つまり、オーラルフレイルは体全体のフレイルの入口なのです。

では、どうすれば予防できるのでしょうか。大切なのは「早めに気づき、行動すること」です。定期的な歯科受診で歯や入れ歯の状態を確認し、虫歯や歯周病の治療・予防を行うことはもちろん、舌や口の周りの筋肉を鍛えるトレーニングも効果的です。例えば「あ・い・う・え・お」と大きな口で発音する練習や、ガムをしっかり噛むことでもお口の機能は維持できます。友人と談笑したりカラオケなどに行くのも良いですね。

お口は「健康の入口」といわれます。オーラルフレイルを予防することは、心も体も元気に保つための第一歩。ぜひご自身やご家族のお口のサインに気を配ってみてください。



巣南リハビリセンター ボランティアさん大募集！(傾聴、軽作業、レクリエーション等、内容は幅広く募集)

詳細はお気軽にご連絡ください。TEL:058-328-3387 担当:森/佐々

【歯科・歯科口腔外科・小児歯科】

外来 月～金曜日 9:00～12:30 / 14:00～17:30 ※土日祝日休み  
TEL.058-239-8255(歯科直通)

歯科口腔外科  
ウェブサイト

